

平成 27 年度秋田大学研究者海外派遣事業により  
実施した研究・教育活動の成果報告について

所属・職名： 教育文化学部 人間文化講座 准教授  
氏名： 大西 洋一  
派遣研究機関名：レディング大学（英国）  
派遣期間： 2016 年 3 月 28 日～2016 年 8 月 10 日  
研究課題： 20 世紀「北イングランド」演劇における地域産業と労働者階級の  
表象に関する研究

□研究成果(列記願います)

・論文

大西洋一, 「1984 年の記憶 —炭鉱ストライキと現代英国文化—」『教養基礎教育研究  
年報』第 21 号 (投稿予定)

・その他

大西洋一, “*Our Ladies of Perpetual Succour* by Lee Hall (The National Theatre of  
Scotland / Live Theatre)” 『秋田英語英文学』第 58 号 (秋田英語英文学会、  
2017 年) : 33-35.

ONISHI Yoichi, “Theatre for the People in the “Brexit” Britain” 『秋田英語英文学会  
Newsletter』第 17 号 (秋田英語英文学会、2018 年) : n.p.

□教育活動等(列記願います)

本事業によって収集した英国の労働者階級文化に関する資料を活用して、教育文化  
学部地域文化学科人間文化コースの専門教育科目である「表象文化特論 I」や「英語  
圏現代文化論」などの授業を行った。特に「北イングランド」の文化を扱った「表象  
文化特論 I」の授業内容は、平成 26・27 年度に開講した秋田大学公開講座 (H26「北  
イングランドの文化—マンチェスターを中心に—」(全 5 回)、H27「北イングランド  
の文化 II—英国ヨークシャーをめぐる—」(全 5 回)) の締めくくりとして開講した  
以下の講座においても取り上げた。

平成 29 年度秋田大学公開講座「北イングランドの文化 III —映画『リトル・ダンサー』  
詳解—」(平成 29 年 8 月 30 日～9 月 27 日、全 5 回)

□海外派遣事業中の教育・研究活動が、帰国後の研究等の活動にどのように反映されたか概括ください。

私はレディング大学の英文学科に受け入れていただいたわけだが、この大学には「テレビ・映画・演劇学科」もあるため大学附属図書館には演劇関係の蔵書が充実しており、しばしば演劇関係の講演会などもあって大変刺激的な経験をするようになった。研究課題は「20 世紀北イングランド」という限定的な領域であったわけだが、演劇全般に対する視野を持った上で研究対象に焦点を当てる重要性を学ぶことができたのは幸いであった。

また、本研究課題がレディングが位置する「南部」からは遠く離れた「北イングランド」の演劇に関わるため、しばしば遠方の様々な研究施設や博物館の文書庫や資料室を利用させていただいた。ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館附設演劇資料室および上演ビデオ視聴室（ロンドン）、国立劇場・文書庫（ロンドン）、英国映画協会・閲覧室（ロンドン）、労働者階級運動図書館（ソルフォード）、民衆史博物館・資料室（マンチェスター）、国立イングランド炭鉱博物館・資料室（ウェイクフィールド）の関係職員の方々には大変感謝している。これらの調査によって、当たり前のことだが、一次資料の収集の大切さを身を持って感じた。一つの戯曲が舞台に上がるまでに複雑な過程を経るわけだが、様々な人間と事象が関わって生じる変化のプロセスを丁寧に確認することが、作品の歴史的形成に光を当てることになる。もちろん日本においてできることには限りがあるが、今後は可能な限り本事業で得たりサーチスキルを最大限に活用して現代英国演劇研究に取り組んでいきたい。